

## 平成20年度地域づくり表彰 表彰事例概要（8事例）

団体名 都道府県名・市町村名	活 動 概 要
ながぬまちょう 長沼町グリーン・ツーリズム  すいしんきょうぎかい 推進協議会  北海道長沼町	<p>長沼町の地理的条件と広大な農耕地を利用したグリーンツーリズムを、低コストで実施できるように、町と農協を中心に研究を行い、事業の実施のために関係団体で推進協議会を設置して全町で取り組みを行っている。</p> <p>国の構造改革特区制度等を利用し、一般の農家の住宅でのグリーンツーリズムの受け入れが可能になったことで、大きな負担なく事業を始めることができ、また一般の農家で農業体験ができるということで、修学旅行等で利用され、好評を得ており、利用者も年々拡大している。</p>
お ぢ や と う ぎ ゅ う し ん こ う ぎ ゅ う ぎ かい 小千谷闘牛振興協議会  新潟県小千谷市	<p>昭和52年に、小千谷市に伝わる闘牛（牛の角突き）の衰退を危惧した有識者によって結成された。翌年には国指定の重要無形民俗文化財に指定され、伝統文化として高い評価を受け、更に地域の誇りとして角突きを盛り立てていく契機となった。また、市の支援により闘牛場が建設されるなど、地域の伝統の神事としてだけでなく、貴重な文化として地域外からの見物の受け入れも積極的に行ってきた。</p> <p>一方、平成16年10月の中越地震により闘牛場などに大きな被害を受けたが、会員の伝統復興への気持ちと多くの支援により翌年の6月から再開され、小千谷市の復興のシンボルとなっている。</p>
よこやましんこうかい 横山振興会  石川県珠洲市	<p>耕作放棄地の有効活用による地域興しのため、地域住民全員で、かつて各家庭で作られていた豆腐の味を復活させようと、平成12年から3年にわたり試行錯誤を重ねてきた。</p> <p>しかし平成15年に低温と長雨により、大豆が全く収穫できず、豆腐を作ることが不可能になった中、集落の農家から、昔地域で栽培されていたものの、すでに幻となっていた「大浜大豆」の提供を受けたことをきっかけとして、大浜大豆の栽培や利用を行ってきた。</p> <p>この結果、現在では各地からの問い合わせも受けるようになり、大豆を通じた地域交流も始まった。また、新たな地域活性化として、休耕地等を利用して生産量を増やしており、大浜大豆の加工研究にも力を入れている。</p>
ゆうげんせきにんちゅうかんほうしんめいほう 有限責任中間法人明宝  岐阜県郡上市	<p>郡上市明宝（旧郡上郡明宝村）では地域の自治会が出資し、第3セクターを設立し、地域資源を利用した加工品の製造や、観光施設の立ち上げ、運営を行ってきた。</p> <p>村名の変更など地域をあげてのブランド作りを行い、その結果、地域の就業人口の14%を雇用する企業となり、地域の自立に大きな役割を果たしている。</p> <p>平成16年、明宝村は7町村の合併により郡上市となったが、自立意識による活力を維持するため、旧明宝村の全自治会を構成員とした有限責任法人明宝を設立し、明宝ブランドの維持に努めている。</p>
どようさいじつこういんかい うだつの土曜祭実行委員会  徳島県つるぎ町	<p>つるぎ町のうだつの町並みは全国的にも珍しい二層うだつで、平成10年には町並み保存条例を制定し、町並みの保存に取り組んできた。</p> <p>しかし商店街は郊外の大型店などの競合で下火になりつつあり、うだつの町並みを活かした活性化を行いたいとの思いから「うだつの土曜祭実行委員会」を設立し、月一回の土曜祭を実施してきた。</p> <p>フリーマーケットや、農産物の特売、まちかどでのライブ、コンサートなどのイベント等を継続してきたことで、来客数も徐々に増え、住民の中にも土曜祭が定着し、住民同士や来訪者との交流も増えてきている。</p>
わかまつ きんがく まくかい 若松で音楽を聴く会  福岡県北九州市	<p>石炭の積出港として栄えた北九州市若松区では、上海からジャズが上陸し、北九州ジャズの聖地となっていた。戦後、その伝統は廃れたが、平成2年から「若松で音楽を聴く会」が結成され、若松区の学校や公園、病院、役所、お寺、銀行、駅など場所を選ばず、演奏を行うことで、市民に音楽に親しんでもらっている。</p> <p>ジャズアーティストを招いたライブ活動も活発で、有名アーティストを迎えに行く「若松鉄人」A Z Zライブ」は、平成20年で12回を迎え、地域での市民イベントとして定着している。</p>
べつふはつどう れんらくきょうぎかい 別府八湯ウォーク連絡協議会  大分県別府市	<p>「別府八湯ウォーク」は、住民達が町作りの一歩は自分達のまちを知ることという動機から、「竹瓦(たけがわら)かいわい路地裏散歩」として地域を歩き始めたことが発端で、別府全域に広まってきた。現在では、10団体13コースの町歩きツアーが開催され、多くの地域内外の人に参加している。</p> <p>始まりの経緯から、コースは地獄湯巡りのような有名な観光地を回るのではなく、路地裏の生活感溢れる共同湯や、別府ならではの老舗など地域に密着したスポットを、自治会役員や旅館の従業員、主婦や海外からの留学生など地域の住民自らが紹介している。</p>
やまのくちみちとぶんやぶしにんぎょうじょうり 山之口麓文弥節人形浄瑠璃  ほそんかい 保存会  宮崎県都城市	<p>戦争により一時活動が中断していた山之口の浄瑠璃であったが、戦後、各家庭に残っていた人形を集め、昭和26年に保存会が結成されて以来、多くの会場で上演を行い高い評価を受けてきた。</p> <p>このような評価を通して、定期公演開催と貴重な人形や資料等の保管展示館の建設の必要性が高まり、平成4年5月に「山之口麓文弥節人形浄瑠璃資料館」が建設された。資料館の完成により、定期公演を開催し、今年3月で64回目となった。また、平成7年12月には「国の重要無形民俗文化財」の指定を受け、さらに、民俗芸能の後継者育成事業として地域内の市立麓小学校の5年生・6年生を対象にした「麓小学校人形浄瑠璃サークル活動」の取組を始め、今年で15年目となっている。</p>